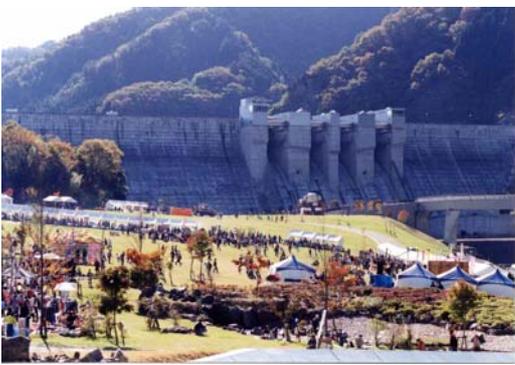
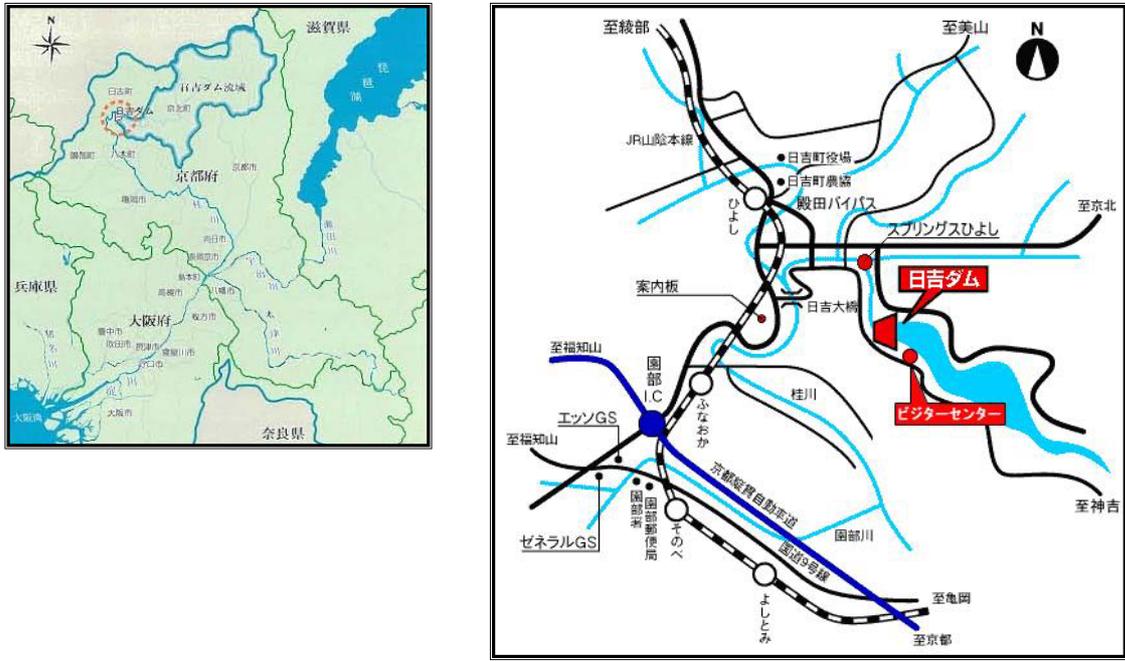


## 観光社会資本の事例

テーマ	「新しい里づくり」、風土・自然を基盤とした健康で文化的なまちづくり
【施設の状況写真】	
土木と建築の分野が一つの景観づくりを行った日吉ダムとスプリングひよし	
	
【施設の利用写真】	
ダム下流に整備されたスプリングひよし。 四季を通じて多くの人が訪れている。	ダム湖周辺を活用したマラソン大会等も実施されている。
	
【観光資源としての利用状況】	
<p>日吉ダムは、周辺の市町村に多面的、複合的な効果をもたらしました。観光面でも、日本で初めてダム内部を見学できるインフォギャラリーやビジターセンター(説明ホール施設)があり、ダムの広報施設となっています。また、ダム直下流に整備した「スプリングひよし」は、周辺の山とダムが調和し、自然の優しさが感じられる公園、温泉施設等人々が憩えるよう工夫されており、「地域に開かれたダム」として、南丹市の新たな観光資源として近隣の市町村にも評判となっています。</p>	
<p>貯水池周辺には毎年約90万人の来訪者があり、安らぎと憩いの場として利用されています。</p>	

テーマ	「新しい里づくり」、風土・自然を基盤とした健康で文化的なまちづくり
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 日吉ダム  所在地 京都府南丹市字中神子ヶ谷68  事業名 日吉ダム建設事業  事業主体 (独)水資源機構  事業期間 昭和46年度～平成9年度</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>利水効果  日吉ダムによって、下流の京都府はもちろん阪神地区の水道用水として使える水が、約100万人分増え、広い地域の暮らしに役立っています。  平成12年の7月、8月の小雨に伴う濁水では、日吉ダムの利水容量1,600万m<sup>3</sup>のうち96%(大阪ドーム約13杯分)が利用され、また観光の名所として名高い保津川下りは濁水による運休はありませんでした。</p> <p>治水効果  日吉ダムの下流にあたる亀岡市などでは、昭和35年、昭和57年等大きな浸水被害がたびたび起きていましたが、日吉ダムの完成により洪水の最大流量が低減されました。平成16年の台風23号の出水では、ダムが建設されたことによって、ダムが無かった場合と比較して浸水面積が87ha低減したとの計算結果がでています。</p>	
<p>【位置図】</p> 	
<p>【関連ホームページ】 日吉ダム管理所 <a href="http://www.water.go.jp/kansai/hiyoshi/">http://www.water.go.jp/kansai/hiyoshi/</a></p>	